

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-48

学校名・団体名	浜松市立北浜北小学校
HPアドレス	http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/kitahama-kita-e/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ビオトープから考える大切な水、そして環境へ
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>学校周辺は自然環境に恵まれているとは言えない。そこで、児童が日常生活の中で生き物を身近に感じ、生命の源である水について、生息する生き物と結びつけて考えることができる場を作りたいと考え、校内のかつてビオトープだった場所を再生することとした。これにより、児童が生き物の生態や生き物に適した生息環境を調べたり、実際に水や土、植物に触れたりする活動がなされ、さらには、水と生き物のつながりについて考えを深めることができると考えた。また、アマゴ里親体験（アマゴを卵から育てて放流する活動）を通して、生命を育む感動を味わい、自然環境を守ることの大切さに気づくことをねらいとした。</p>	

<活動内容>

1 ビオトープの再生

6月 **ビオトープを知る**

- ・ビオトープがどのようなものか理解した。
- ・自分たちのビオトープをどのようなものにしたいかイメージを膨らませた。
- ・ビオトープのテーマを考え、決定 → 「創立40周年 ぼくらの夢トープをつくろう」

夏休み **ビオトープについて調べる** (各自の、調べ学習)

9月 **ビオトープへの理解を深める** (講師を招聘しての学習)

- ・夏休みの調べ学習で出てきた疑問について講師に質問
- ・ビオトープについての講話

ビオトープの構想を練る (講師を招聘しての学習)

- ・ビオトープの基本設計を知った。
- ・自分たちの希望を入れながら、構想を練った。

10月 **生き物の生活史を調べる**

- ～12月
- ・ビオトープに生息してほしい生き物の生活史を調べた。
 - ・生き物に適した環境を考えた。
 - ・生き物に適した環境にするためになにが必要か考えた。

ビオトープの池を掘る (講師の指導を受けながらの活動)

- ・児童の活動前の、協力業者による作業 (掘削、シート敷設、埋め戻しなど)
- ・児童の手作業での池を掘る作業 (決定したデザインを元に、掘り進めた)

1月 **ビオトープの池の補強作業**

- ～2月
- ・主に、協力業者による作業

植栽の準備

- ・池周辺を整えた。(不要な石の除去、整地作業など)

3月 **植栽**

- ・地被植物、灌木の植栽

2 サツキマスの放流とアマゴ里親体験

10月 **サツキマスの放流体験** (天竜川にて)

11月 **アマゴ里親体験**

- ～2月
- ・アマゴを卵から育てる活動 (各家庭)
 - ・育てたアマゴの放流 (鏡山地区、二俣川)



<成果>

- ・ビオトープ作りの構想段階から児童の思いを取り入れていくことで、児童のビオトープへの関心が高まり、生息する生き物の生態や生き物に適した環境について意欲的に調べることができた。さらに、水と生き物のつながりについて考えを深めることができた。
- ・ビオトープ (夢トープ) が完成することにより、活動してきた5年生だけでなく、他学年児童も、生き物を身近に感じ、生き物と環境について考えることができるように、今後なっていくと思われる。
- ・ビオトープ (夢トープ) は、本校児童の環境学習の場になるだけでなく、近隣住民の憩いの場となり、家庭・地域の人たちの自然環境への関心を高める場となっていくと考える。
- ・アマゴを卵から育てて放流する活動では、生命を慈しむ気持ちを育んだり、水質保全や自然環境への関心を高めたりすることができた。